



奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団

URL: <https://jcws.or.jp/houjin/houjinn.html>

第 41 号 2025 年 12 月

Tel 03-3202-0486

Fax 03-3202-0487

「主語のない会話」

理事長 渡辺 教

今年4月に始まった大阪万博は、始まる前は開催が間に合うか危惧されるなど低調でしたが閉会が迫るにつれて大きく盛り上がりました。また10月には日本初の女性首相の高市早苗内閣が発足しました。安全保障の強化、物価や議員定数の問題が話題となっていますが、社会福祉、特に障がいに対する施策はどうなるのか関心の持たれるところです。

9月以降は日々食べ物を失った熊の市街地等への出現、被害がニュースとなりました。

夏からの異常気象の結果、餌となる木の実が不作だそうで、お腹を空かした熊が民家近くで柿や栗等を食べたり、人身を傷つけたりで、身近かな場所へ熊の出没には「え……」と驚かされます。いままで、動物園や絵本、マスコットキャラクター、ぬいぐるみ等がかわいい・カワイイと人気のあるクマがこれ程人間との生活圏内で問題になったことはありません。地球規模の気候変化、開発による自然破壊や熊の住環境を変えてしまったのは人間の責任でもあります。住み分けの問題が議論されていますが、クマの方では、そんなことは知る由もありません。住み分けといいつつ、人間が他の動物を追いやっているのが現実なのではないでしょうか。

日本キリスト教奉仕団では今年度から新しく中期5か年計画が始まりました。「共に生き、共に歩む」という法人のビジョンの具現化、実行に役職員一同を踏み出しております。今回の奉仕団ニュースでは、このビジョンに則した奉仕団各施設の活動が報告されております。特に、地域との交流ではコロナ渦後、アガペセンター、アガペ東京センター共に旅行など外出や外部への催物参加等を盛んになっております。

また、9月30日からは3週間にわたりモンゴルからの研修生を迎えてアジア交流研修が行われました。研修生のサインビレグさんは首都ウランバートルから1500キロも離れたホブド県で障がい児の発達支援をしている方で、モンゴルとは環境も福祉の実態も全く異なる日本の施設から多くのことを学ばれて帰国されました。



日本キリスト教奉仕団のビジョンは施設の中だけで完結するものではなく、地域や、地方、国を超えて、果たしていくところに意義があります。各施設の働きや、海外との交流が広がっていくことができれば願っております。

先日朝、散歩している時に前からきた散歩の方と「見えませんね」と二人で同じことを合唱してしまいました。次に来た犬の散歩の人は「今日は見えませんか」と声をかけてきました。ここは勝坂という天気によければ横浜から丹沢まで見える山の上で、今日あたりはもう、右側に富士山が白く輝いて見えるはずでした。初めて会った人との間でもこんな主語の無い会話で心が通うことこそ「共に生きる」ということの実感ではないでしょうか。

日本キリスト教奉仕団は社会の大きな波に流されるのではなく、常にその名に恥じないよう、障がいの有無にかかわらず「共に生き、共に歩む」当たり前の暮らしが出来る地域共生社会の実現をめざして、前進してまいります。

これからも、皆さまのご理解、見守り、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

カレーキッチン Sara と地域における公益的な取組

アガペ作業所施設長 坂口 健

アガペ作業所では、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、就労定着支援事業と3つの事業を運営しており、障がい者お一人お一人の「働く」を支援しています。

ご存じの通り、社会福祉法人には地域における公益的な取組が責務としてあり、多様な地域貢献活動が求められています。今回は、アガペ作業所にて運営しているカレーキッチン Sara で実施している同取組をご紹介します。

現在、Sara では市内2 団体が実施している子ども食堂に対して無償でカレー弁当や店舗で製造したレトルトカレーを提供しています。直接、アガペ作業所が子ども食堂を実施するには至っておりませんが会場として店舗の貸出も行っており、少しでも地域の子育て支援の一助になればと考えています。

又、地域の幼稚園やコミュニティセンターで実施する催事には安価な地域貢献価格で販売を行っています。

冒頭で述べた通り「働く」を支援する

場である事から全てを

無償とする訳にはいき

ませんが、少しでも多

くの方に喜んで頂くと

共にアガペを知って

頂く事を目的に長年続けています。

結果、アガペや Sara が地域の一員として迎えられている事を日々の事業運営の中で成果として感じおり、今後も、少しでも地域の一員として寄与できるよう店舗運営に努めて参りたいと考えています。



『知的短期入所』 事業所紹介

サポートセンター施設長 府川 孝臣

知的短期入所事業は、単独短期入所として 2006 年 10 月から始まり、ちょうど 19 年が経ちました。

ご家族様の疾病や怪我・冠婚葬祭・介護疲れの息抜き利用者様の将来の生活に備えた宿泊体験を積む等、利用者様及びご家族様のニーズに沿ったサービスを提供しております。利用者様各々の障がい、生活スタイルを踏まえた関わりや環境を整えることで、安心・安全に利用

できるように努めております。

また、それぞれの障がい特性に応じた専門性の高い支援を提供するために、強度行動障害研修(基礎・応用)等に支援員を派遣、最新の技術や知識を習得する等、人材育成の観点からも支援体制を整えております。

あわせて、アガペサポートセンター知的短期入所は、地域生活支援拠点登録事業所としての機能も持ち合わせております。緊急短期入所利用の要請があれば、積極的な受け入れ準備を行い、特に医療的ケアのある方など、サービス利用に困っておられる方々も大勢おられます。地域の利用者、ご家族のニーズに継続的に応えられるよう、効率的な支援体制の構築など、地域生活を支える一助となり続けられるよう、今後も創意工夫を続けていきたいと思っています。

『スマイル・スマイルⅡ』 事業所紹介

サポートセンター施設長 府川 孝臣

共同生活援助『スマイル』は 2010 年、『スマイルⅡ』は 2014 年に、それぞれオープンしました。

利用者ひとりひとりが、活き活きと、自分らしく、自立を目指せる地域生活の場を提供する事を目的とし支援提供をしております。

また、利用者およびご家族が安心できるよう丁寧な支援を心がけ、利用者個々の余暇を充実できるように、個別性を重視した生活を送っていただけることに重点を置いております。

利用者の生活スタイルとしては、平日は通所施設や就労先へ通所、通勤し、土日祝日はご自宅へ帰宅、ヘルパーさんなどと外出をするなど、それぞれが希望する過ごし方で生活をします。生活は温かみのある手作りの食事、毎日の入浴、など一般的な生活を送り、自分でできることにもチャレンジしながら、生活スキルを身に付けていただくことも大切にしています。

また、個別の支援だけではなく、グループでの外出や季節に応じた外出(初詣、花見、花火大会、クリスマス等)も提供しております。

今後も、地域の住民として、近隣住民の方々と協力し合って、利用者の方々が、地域生活を続けられるよう支援提供を続けていきたいと思っています。

○アガペ東京センター

アガペ東京センター長 佐々木 章吾

アガペ東京センターの本部がある東京都板橋福祉工場は、1974年4月の経営受託開始からほぼ50年、2015年建替え工事から完成から10年を迎えます。節目でもあるこの年に、事業的には受託開始当初から継続してきた就労継続A型(旧福祉工場)をこの3月末にて廃止しました。

この背景には全世界的な流れであるデジタル化というものが大きく関係しており、最近少しアナログ的なものが見直されつつあるものの、その流れは一層早くなり、今後AIの進歩によりいろいろなものが影響を受けている現状があります。大きなお金が投下出来、不採算部門はすぐに閉鎖できる一般企業に比べ、障がいを持つ方の就労を目的とした福祉事業は、変化に弱く対応に遅れが出やすいと考えます。また企業の障がいを持つ方の法定雇用率も上がっていき、福祉施設における生産性も以前ほどはなくなってきました。東京都板橋福祉工場では10年前工場の建て替えを行うと同時に、支援の対象を身体に障がいを持つ方から、知的障がいや発達障がいを持つ方を対象とした、就労継続B型事業をその中心に据えました。福祉工場はおかげさまで広い土地お借りしています。また広い工場の空間もそろっています。この今持っている資源を有効的に活用していくことが今後の課題です。10年前から始めた知的障がいを持つ方への就労継続支援ですが、現在50名あまりの利用者が通っていて、多くの若い障がい者の声が響いています。彼らがこれから何十年も通うかもしれない施設をどのように発展させていくかを考えていきます。

○板橋福祉工場

東京都板橋福祉工場 GM 米田 憲政

今年3月、A型事業所を閉鎖しました。東京都板橋福祉工場は、1974年に創立されました。当時は障害者雇用がまだ十分に進んでいない時代でしたが、「環境(バリアフリー)が整っていれば、障がいのある人(身体障がい)でも健常者と同じように働ける」という理念のもとに設立されたと聞いております。

事業の中心はマイクロフィルムでしたが、当時主流だった青焼きによる複写にも力を入れ、東京都をはじ

め、ソニーやキャノンなどの官公庁・民間企業を主要な取引先としていました。売上のピークは1992年で、14億円を記録し、社

員旅行でハワイへ行った年でもありました。バブル経済の恩恵を受けた時期もありましたが、その後は東京都からの優先発注が減少し、さらに1995年のWindows95発売を契機としたインターネットの普及やデジタルカメラの登場により、資料のデジタル化が急速に進みました。その結果、売上は徐々に減少していきました。また、創立当初に30代・40代で入職した障がいのある職員も定年を迎える時期となり、従業員数も売上に比例するように減少していきました。そのような中、2012年に大きな転機が訪れます。施設が民間移譲されることとなり、知的障がいのある方を受け入れるB型事業所を開設しました。さらに2013年と2015年には建物の新築を行いました。

創立から半世紀を迎えた現在、福祉工場は地域のニーズ(近隣に特別支援学校があることなど)に応じて、利用者の受け入れを行っています。

受注作業、レストラン、ベーカリー、植物工場の4つの新しい事業を展開し、創立当初とは大きく姿を変えた施設となりました。当初の理念である「障がい者でも健常者と同じように働ける」という考えは、今では「利用者の工賃向上と一般就労への支援」へと形を変えています。しかしその根底には変わらず、障がいのある方が誇りを持って通える職場でありたいという思いがあります。これからも、地域と共に歩む福祉工場としてあり続けたいと考えています。



○国会図書館複写受託センター

複写受託センター センター長 佐藤 明彦

国会図書館複写受託センターでは国会図書館内において館の所蔵資料の複写業務サービスを行っております。開館日には数多くの利用者が来館し、膨大な館所蔵の資料の中から必要な資料を取り寄せ閲覧されております。

複写業務サービスには来館しての資料複写や、来館しなくとも国内外から資料複写申込が可能なサービスがあり、沢山の利用者の方々に活用いただいております。スタッフとして現在障がい者職員 3 名を含む正職員 11 名、非常勤職員 52 名が在籍しています。

今後も末永くサービスを提供できるよう運営に取り組んでまいりたいと存じます。

○新宿区立新宿福祉作業所

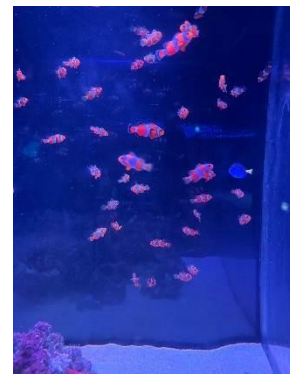
新宿福祉作業所 所長 鈴木 康洋

新宿福祉作業所は、2007 年 4 月から指定管理者制度による運営を行っております。2019 年より、利用者の皆様により良い支援を提供すべく、2019 年より就労継続支援B型と生活介護の多機能型事業所として運営しております。昨今は通われております皆様のご様子も変化してきている中、多機能型事業開始より 5 年経過し、更なる支援環境の検討が必要となってきました。末永く利用者の皆様が生き活きと活動頂ける様、努めて参ります。

作業支援に於いて、コロナ禍以降、外部販売を中心に多くの企業様より販売の機会を頂戴し、製造・販売にて更なる活躍の場が増えております。また、自主製品販売に於いても、昨年度から販売品目の工夫が成され、手に取りやすい商品が増えたことで、新たな活路が見出されております。一方で、時代の流れもありますが、受注作業が企業様の状況も変わり、作業数減少が見受けられると言った事態にあり、今後の活動の方向性を見出していく必要があります。今までの概念に捉われず、多くの皆様にご活躍頂ける様な形を引き続き探求して参ります。

日中支援に於いて、皆様が楽しみにされております宿泊旅行を、今年度は 6 月・7 月の 2 回で、箱根・伊豆にて実施をさせて頂きました。この時期でも既に真夏日で

汗をかきながらの旅行となりましたが、美味しい物を沢山食べ、水族館やサファリにと楽しみも多く、笑顔の絶えない旅行となりました。そして、今年度は今まで提供が行えていなかった日帰り旅行も年明けでの実施が控えております。また、年末年始を挟んでの季節行事等もあり、慌ただしい日々が続きますが、仕事に楽しみにと、楽しみながら歩んでまいります。



イベント関連でのご報告と致しまして、新宿福祉作業所の伝統でもあります“等身大アート”ですが、長年展示会を開催しておりました横浜 SOGO さんでの開催を終了し、今年度は新宿の地で新たな展示場所を探しておりました。

今回ご縁があり、新大久保駅の近くにあります“ルーテル教会”さんのご厚意により、12 月より展示をさせて頂く運びとなりました。地域に根差した展示の場をご提供頂けましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。また、今回は新たな試みとしまして、等身大アートのみならず、生活介護 PG や、イラストクラブにて作成した作品も展示することで、“福作アート展”と題し、12/1～12/25 までの 4 週間に渡り展示をさせて頂きます。新宿の中で福作の皆様の活動をお知らせ出来る場に向け、取り組んで参ります。お仕事に、楽しみにと活気のある新宿福祉作業所へ、お近くにお立ち寄りの際はぜひお立ち寄り頂き、利用者の皆様に会いに来てください。



2025 年アジア研修交流事業報告

モンゴル 5 か年計画の最終年としてのアジア研修交流の実施

アジア研修交流担当 渋谷 浩二

当奉仕団では、1980 年からアジア研修交流事業の一環として「アジア研修交流プログラム」を実施し、これまで研修に参加された方は、インド、中国など 15 の国や地域から延べ 89 名に及んでいます。

今年度は、モンゴル国 5 か年計画の最終年としてホブド県の「障害者開発センター」の職員で、障がい児の発達教育支援をされているサインビレグさんを研修生として招待、3 週間の障がい児者福祉サービスの見学研修を実施いたしました。ホブド県は首都のウランバートル市から 1500km 西に位置する地域で、今回初めてモンゴル边境の地域で活躍している職員を招待しました。

サインビレグさんは、未就学児の療育施設や 18 歳までの就学児童への様々な支援サービスを見学、絵やカードを用いた日常生活の基本的動作の習得や集団生活の適応能力の養成など、ひとりの人格者として接していくことの大切さを痛感されていました。また、障がい児は小さい頃から適切なケアをしていくことで社会環境への順応が早いことから、早期発見、早期療育が鍵であることを学ばれ、熱心にメモを取っていました。さらに様々な手作りの教材や道具にも興味を持たれていました。



伊藤忠ユニダスのクリーニング作業を見学

サインビレグさんは、障がい者の就労支援施設や介護施設も見学しました。一人ひとりの障がい者の特性や障がいの程度に合わせて就労支援をしている様子や、働く環境を整えてあげることなど

一人ひとりにあったコミュニケーションを工夫することで「わかる」ことを大事にしながら自立を目指していく様子を学んでいました。企業から受注した仕事に作業工程を分けながら取り組んでいる様子、自主作品の製作、パンの製造、クリーニング、植物工場、車部品の組み立て、清掃作業などを見学しました。



貴峯荘ワークピアで利用者の作品を見学

研修生は、研修での体験を次のように述べていました。「どのような施設を見学しても、職員たちが利用者である障がい者一人ひとりに丁寧に優しく接している姿がとても印象的でした。また、障がい者一人ひとりの特性に合わせて作業環境や作業方法を工夫し、働く場を提供していることが非常に素晴らしく、作業所で働いている障がい者が健常者と見分けできないくらいよく働いている姿に感動しました。帰国後は、日本で学んだことを生かして、障がい者各自の特性に合った環境作りや育成計画書の作成など実施していきたいです。そして障がい者でもできるクリーニング作業や縫製による自主作品作りなどを通して、障がい者の就労の機会を増やし、社会で自立する能力を高めるように支援していきたいです。」と熱い思いを語っていました。

この事業は、すべて皆様からの寄附金や献金によって運営されています。皆様からの温かい支援を深く感謝するとともに、今後も引き続き皆様のご理解を賜りながらご支援とご協力を謹んでお願い申し上げます。

2025 年 日本キリスト教奉仕団 事業概要

<法人概要> 2025 年 11 月 1 日現在

名 称 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
所 在 地 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
代 表 者 理事長 渡辺 教
常 務 理 事 瀬谷 智明
理 事 鈴木 寛 田口 努 中台 厚 田中 誠一 佐々木 章吾 元田 勲
監 事 秋山 信義 後藤 省二
評 議 員 井殿 準 鹿村 洋人 小出 千鶴子 野口 美加子 古市 慎 牧 由希子
宮本 和武 百瀬 一成 山田 秀樹 和田 一郎

<事業概要> 2025 年 11 月 1 日現在

① 第一種社会福祉事業

・アガペ壺番館:障害者支援施設(施設入所支援・生活介護・短期入所)

② 第二種社会福祉事業

- ・アガペ作業所:障害福祉サービス事業(就労移行支援・就労継続支援 B 型・就労定着支援)
- ・アガペサポートセンター:相談支援事業(一般・特別)「受託制度」
障害福祉サービス事業(生活介護・短期入所)
- ・座間市障がい児・者基幹相談支援センター:支援事業所
(相談支援事業所等の後方支援、地域ネットワーク業務)「受託制度」
- ・座間市立もくせい園:障害福祉サービス事業(生活介護)「指定管理者制度」
- ・座間市立児童発達支援センター:児童福祉サービス事業
(児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービス
障害児相談支援・日中一時支援)「指定管理者制度」
- ・スマイル:障害福祉サービス事業(共同生活介護)
- ・東京都板橋福祉工場:障害福祉サービス事業(就労移行支援・就労継続支援 B 型事業)
- ・新宿区立新宿福祉作業所:障害福祉サービス事業
(就労継続支援 B 型・生活介護)「指定管理者制度」

③ 公益事業

- ・国立国会図書館複写受託センター
- ・アジア研修交流事業
- ・アガペ診療所

【お詫びと訂正】

奉仕団ニュース第 40 号の内容について、以下の誤りがありました。
お詫び申し上げますとともに、正しい内容を改めてお知らせします。

- ① 献金者のお名前の誤り
(東京都板橋福祉工場のために) 竹内 啓一様
ご協力ありがとうございました。
- ② 貸借対照表の金額の誤り
負債の部合計 2,254,749 千円

奉仕団ニュース 第 41 号

発行日:2025 年 12 月 1 日

発行責任者:

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団
理事長 渡辺 教

住所:東京都新宿区西早稲田 2-3-18
電話:03-3202-0486